



—各種セミナーや会場の様子を振り返る

# ジャパンゴルフフェア2022

第56回

初の一般来場有料開催



3月11～13日の3日間、パシフィコ横浜で開催された「第56回ジャパンゴルフフェア2022」（主催…一般社団法人日本ゴルフ用品協会/J G G A、アレックスM. ボーズマン会長）は、今年もコロナ下での開催となったが、ゴルフ熱が高まってきていることもあり、今年の出展者数は前回の117社から125社と8社増加し、3日間の来場者数は3万1479人（一般来場者…4608人、ビジネス関係者…2万6397人、報道関係者…474人）と前回の2万1793と比べると、約1万人ほど増加する結果となった。

今年度もゴルフフェア開催期間中に、ゴルフ関連団体が主催の各種セミナーが隣接するアネックスホールで行われていたので、講演内容をそれぞれ紹介していきたい。なお、どのセミナーも会場で人数制限、そしてZOOMでの配信を行っていた。

また、ゴルフフェア会場内で目に付いたブースの紹介も合わせて行っていきたい。

**ゴルフ市場活性化委員会（GMAC）は、ゴルフ2030年の課題がテーマに**

今年もゴルフフェア初日（11日）にゴルフ市場活性化委員会（横山雅也委員長）はセミナーを実施した。テーマはゴルフ2030年の課題（サブテーマ…社会と共生するゴルフを目指して）であった。

まず、GMACの委員長であり、全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）の会長でもある横山雅也氏から、GMACの年間活動報告（2021年4月～2022年3月）が行われた。報告内容は以下の通



【2021活動計画】

- ①組織の見直し
- ②部会を中心とした活動（月1回GMACを開催し、情報共有して活性化活動を進めている）
- ③ゴルフ関連団体が効率的、効果的に一体となって活性化に取り組む土台の構築
- ④ゴルフ市場拡大に向けた取り組みを推進する民間企業との連携強化
- ⑤ゴルフ市場拡大のためのゴルフファースト及びノンゴルフファーストに向けた情報発信の強化

り。



GMAC 年間活動報告 (2021.4月～2022.3月)

これまでのGMACの活動

月	活動内容
4月	GMAC 第1回総会
5月	GMAC 第2回総会
6月	GMAC 第3回総会
7月	GMAC 第4回総会
8月	GMAC 第5回総会
9月	GMAC 第6回総会
10月	GMAC 第7回総会
11月	GMAC 第8回総会
12月	GMAC 第9回総会
1月	GMAC 第10回総会
2月	GMAC 第11回総会
3月	GMAC 第12回総会

■4つの部会で活動

①事業推進部会

- ◆具体的活性化活動を決定し実行する。小さな事例を実践する
  - ・ゴルフ初心者応援企画をしている
  - ・事業者の事例を紹介
  - ・現在GMACが後援している企画の内容を見直し、拡大に向けた取り組みを応援する。↓今回報告
- ◆企業連携・交流部会
- ・後援、協力している外部企業やゴルフ市場へ新規参入している



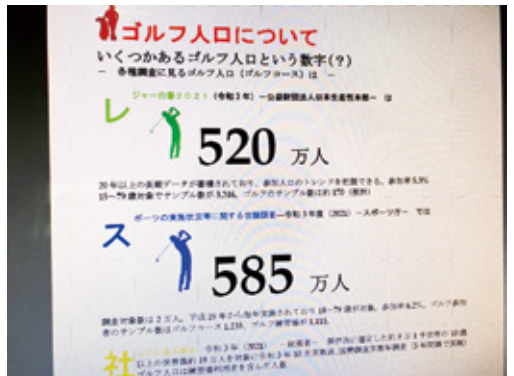
◆市場調査研究部会

- ◆各団体等が行っている景況、アンケート、活性化事例等を取りまとめる、簡易版ゴルフ白書の作成
- ・SDGs、健康経営とゴルフに関する調査研究↓今回のセミナー
- ・フォワードティに関しての調査と新たなゴルフの楽しみ方としての提案



◆メディア広報部会

- ◆ホームページ、外部への情報発信、関係団体、組織に情報を伝える（メーリングリスト等）
- ・ホームページリニューアル↓進行中
- ・メディア関係企業との交流
- ・外部への発信強化
- 次いで、日本ゴルフ場経営者協会（NGK）の専務理事で、GMACでは市場調査研究部会長を務めている大石順一氏から「ポストコロナ社会でゴルフを普及するに



は？」——ゴルフ界はウェルビーイングな社会の実現に貢献する、と題した講演が行われた。

ここでは、①ゴルフ場利用税の課税状況からみた利用者の推移、②ゴルフ界全体でゴルフ普及活動の中長期ビジョンを策定、③ビジョン立案のための3視点(第1視点・新型コロナウイルス感染症に起因する視点、第2視点・社会構造の変革に起因する視点、第3視点・SDGsに起因する視点)、④SDGsとゴルフ場経営の合理化と効率化の事例、⑤コース管理技術の向上と地球温暖化防止——など、主に団塊の世代のリタイア、ポス

トコロナ禍での生活者価値観の変化、SDGsからゴルフ2030年の課題提起についての発表が行われた。

そして横山氏、大石氏2人の講演後、「ゴルフ2030年の課題をどうとらえるか」(社会と共生するゴルフを目指して)をテーマに、パネルディスカッションが行われた。

司会進行は片山哲郎氏(GMAC企業連携交流部会長、ゴルフ用品界社代表)が担当し、パネラーとして、横山雅也委員長、大石順一市場調査研究部会長、木村正浩GMACメディア広報部会長(ゴルフダイジェスト社専務取締役)、富山暁氏(㈱アドウェル代表)の4人が登壇した。

- ・2030年ポストコロナの社会の変革にゴルフがどのように対応できるか
  - ・社会的課題の解決にゴルフは貢献できるか
  - ・社会の中でのゴルフの居場所
  - ・ゴルフが持つ多様性
  - ・社会の中でゴルフが必要とされるか——といった内容の議論が行われた。
- なお、GMACはゴルフ関連6

団体(日本ゴルフ場経営者協会、日本パブリックゴルフ協会、日本ゴルフ用品協会、全日本ゴルフ練習場連盟、日本ゴルフジャーナリスト協会、日本ゴルフ協会)から構成され、各団体が連携し、各団体が持つ機能を融合させ、新たなゴルフ需要創造とゴルフの健全成長に向けた、はじめよう、続けよう、もっとゴルフを”をスローガンに2004年11月から活動している。

### 日本ゴルフジャーナリスト協会セミナー

GMACセミナーと同日に、日本ゴルフジャーナリスト協会セミナーも開催された(開催時間は別)。

今年のセミナータイトルは、「コロナ禍でゴルフ界が得たもの、失ったものを徹底検証！コロナ後、日本のゴルフはどこに行くべきか」で、主な内容は、コロナ禍でゴルフ業界にどのような影響が起こったか、また、コロナ後の展望はどのように開けているのか等を練習場業界、用品業界、中古市場、予約サイトでの変化など、それぞれの業界に知見のある業界人が登壇



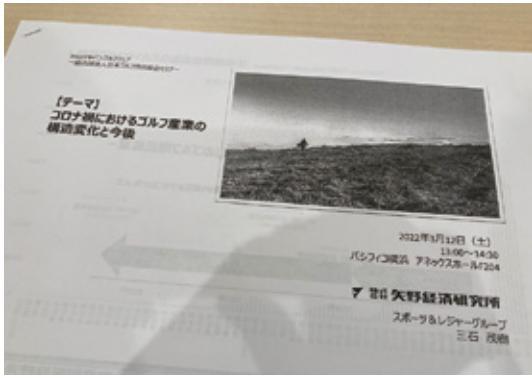


し、同協会の小川朗会長が司会進行する——といったものであった。登壇者は、北谷津ゴルフガーデンの土屋大陸社長、ゴルフパートナーの新井田勇二執行役員練習場本部長、マグレガーゴルフジャパンの松下健企画開発部課長、ゴルフダイジェスト・オンラインの広報PR担当・向井康子氏の4名で、セミナーの受講対象者は「ゴルフ業界の現状と今後に関心のある方」であった。

今年の日本ゴルフ用品協会（JGGA）のセミナーは3月12日に開催された。講師は（株）矢野経済研究所の三石茂樹氏で、講演タイトルは「コロナ禍におけるゴルフ産業の構造変化と今後」であった。

セミナーの主な内容は①データで振り返る「コロナ期」のゴルフ産業（新型コロナウイルス対策とゴルフ用品販売の関連性、レディーズ市場の活況）、②コロナ期の国内ゴルフ参加人口構造の変化、③コロナによる市場変化から見えた課題と今後（矢野経済研究所が

**ゴルフ用品セミナー**  
**講師は矢野経済研究所の三石氏**

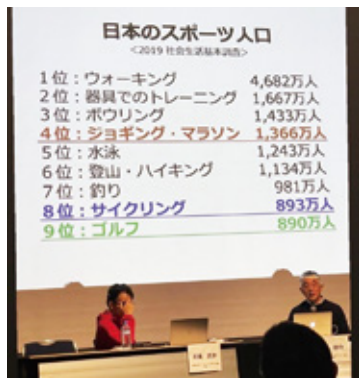
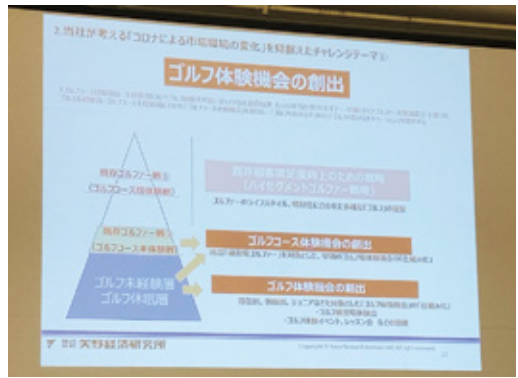


考える「コロナによる市場環境の変化」を見据えたチャレンジテーマ——についてであった。

②の「コロナ期の国内ゴルフ参加人口構造の変化」では、コロナ期（2020年1月以降から現在まで）以降、休眠復活を含め、累計で約81万人の新規ゴルフファアが生まれ、コロナ新規参入ゴルフファアは女性の構成比が高いとの報告が行われた。

**ゴルフトリアスロンセミナー**

今年の日本ゴルフトリアスロン協会のセミナーは3月12日に開



催された。セミナータイトルは「ゴルフトライアスロンという新競技がもたらすものパート2」であった。主な内容は「ゴルフトライアスロンという一つのスポーツイベントがもたらす効果について」、登壇者は同協会の松尾俊介代表理事であった。受講対象は、ゴルフ場関係者を始めとするゴルフ関連業者及び、一般参加者であった。

## 1 ゴルフ練習場ビジネスセミナー

全日本ゴルフ練習場連盟主催の「JGRAビジネスセミナー2022」は3月11日に開催された。セミナーの内容は「スポーツから



学ぶ人材育成術より良い組織づくりがより良い人財を育てる」で、仁村薫氏（元プロ野球選手で引退後は巨人、中日、楽天でコーチ）からの基調講演がメインであった。講演では、①人材育成のヒント、②強靱な組織づくりのヒント、③指導者のヒントについての話があった。

その後、2021年度の経営維持表彰式が行われ、最優秀賞は「セット販売で客単価の上昇」（井高野ゴルフセンターⅡ大阪府）で、優秀賞は「経営部門」（チャリティーオンラインレッスン）（ゴルフガーデンナイスインⅡ秋田県）、【サービス部門】「ニューズレター「気ままにFore」（桜宮ゴルフクラブⅡ大阪府）、【維持管理部門】「ボール集球効率アップ」（菊水ゴ

ルフクラブⅡ兵庫県）がそれぞれ受賞した。

最後に、セミナー会場ではなく、ゴルフフェアの会場内で気になった3つのブースに少し話を聞くことができたので紹介したい。

## 神戸・兵庫ゴルフツーリズム協議会／三木市ゴルフ協会

神戸・兵庫ゴルフツーリズム協議会は、ゴルフを活用したスポーツツーリズムの推進により、神戸・兵庫地域への観光誘客を図り、地域経済の活性化に寄与することを目的に、ゴルフ場・宿泊施設・メディア等で構成し、2018年



に設立した団体だ。神戸・兵庫地域のゴルフツーリズムの基盤整備や国内外への情報発信、商品造成・販売、ゴルフを活用したイベントなどを行っている。2020年からは、「神戸・兵庫ゴルフパック」として、ゴルフ旅行商品を展開している。

ゴルフの街である三木市には25のゴルフ場が存在している。数々のプロゴルフトーナメントの舞台として、迫力あるゴルフの醍醐味と感動をゴルフ場から発信している。全国的にも交通の要所として注目され、広域アクセスが抜群である利便性を生かし、数多くのゴ





ルファアから人気を集めるエリアの一つとなっている。

ブースで精力的に動いていた神戸観光局の羽東佑樹氏と、花屋敷GCよかわコースの加藤徹也氏からコメントをもらった。

「今回出展した理由ですが、コロナ禍でゴルフ人口が増えている中で、国内でお客様を獲得していかないといけない時にやはり北海道、沖縄といったエリアは元々認知が高かったと思います。次のチョイスとして関東圏を含めて、比較的アクセスも良い三木市や神戸にゴルフ旅行に来ていただきたい、新たなゴルフ旅行先の可能性を開いていただきたいなと思い、PRも含めて出展させていただきました」（神戸観光局の羽東佑樹氏）

「私も(株)花屋敷ゴルフ倶楽部（よかわコースとひろのコース）は関西に根差した企業ではありますが、日本全国からお客様を集めたい気持ちがあります。特に所得の高い関東の方をどう取り込んでいくかが、私どもだけでなく関西のゴルフ場全体の課題だと思います。当倶楽部はトーナメントコースというところもあり、ある程度知名度はあるかもしれませんが、こ

のような機会に顔を出させていたでいて、関西地区の知名度をどんどん高めていくことが大事です。関西地区も人口が少し減っているから、そこをカバーできるような認知度アップを継続して取り組んでいきたいと考えています」（花屋敷GCよかわコースの加藤徹也氏）

## 北海道ニセコゴルフ&ステイ HANAZONO GOLF (18H)

「当コースが位置している北海道のニセコは、冬は知られています。夏がなかなか知られていません。ゴルフ場としてどうしていくかと考えて時に、このような大き



なイベントに参画して、夏のニセコをアピールしたいを思ったのが出展理由です。夏のニセコはゴルフ以外にも色々なアクティビティもありますので、その辺りも含めてうまくアピールしていくのが狙いです。ニセコに興味を持っていただいた来場者の方々とのコミュニケーションもできて良かったです。

これからインバウンドも戻ってくると思いますけど、やはりベアスは国内のお客様でありますから、夏のニセコの認知度UPに努めていきたいと思っています」（HANAZONO GOLFの加藤恭雄支配人）

## ゴルフフェアの初出展 ゴルフ場を華やかにするキャディウェアの新ブランド「MISAL」(ミーサ)

ユニフォームの製造・販売を手掛ける(株)エムズ（神奈川県横浜市）はキャディウェアのブランドを昨年立ち上げ、ゴルフ業界に参入した。

「今回、私たちは「Misal」（ミーサ）というキャディウェアのブランドを立ち上げました。その理由としては、コロナ禍でもゴルフ人

口は増えていきますし、2025年問題で団塊の世代の方もゴルフをされる方も減ってきていたり、ゴルフ場はこれからどんどん若返っていかねければいけないのでは、と考えています。そこで日頃、あまりスポーツが当たらないキャディさんにもっと華やかに美しく、そして誇りをもって働いていただきたい、ゴルフアの皆さんと同じぐらい輝いてほしいとの思いからブランドを立ち上げました。「Misal」というブランドでゴルフ業界と一緒に盛り上げていきたいなと考えています」（(株)エムズの飯島輝幸執行役員）

